

第7号

地域・家庭・学校をつなげる新聞!



熊谷ひみつ新聞

Kumagaya Secret Newspaper

社団法人 熊谷青年会議所 15,000部発行
 熊谷市宮町2-39 熊谷市立商工会館内
 電話 048-524-0440
 FAX 048-524-0519
 http://www.kumagaya-jc.or.jp/



後援 熊谷市 熊谷市教育委員会 熊谷商工会議所
 印刷 株式会社ピーアイピー 熊谷市筑波1-157-2 電話 048-524-1463

テーマ

エンジョイ!!! 熊谷

新川村のひみつ!	1ページ
ほくらのまちの小さなたからもの	2ページ
麦王 権田愛三のひみつ	3ページ
おいしいクールシエアのひみつ	4ページ



- ①誰も住んでいないのに郵便番号がある。
- ②誰も住んでいないのに電柱がある。
- ③土手から見下ろすと屋敷跡の竹林や防風林が点在している。

熊谷に「幻の村」があった!!!

それは荒川とともに生き残った村

新川村のひみつ!

みんなこんにちは!みんなは自分たちの住む町熊谷に興味や関心がありますか?自分たちの町に興味や関心があるならば、ぜひこの熊谷を楽しみましょう。まずは「幻の村」のひみつをあばいて自分たちの町熊谷を楽しみましょう!レッツ・エンジョイ!!!熊谷

新川村誕生の秘密

昔、久下小学校周辺は雨が降ると辺り一面沼地になりお米や野菜などの作物が育たない荒地で周りに住む人たちは大変苦勞していました。困った人たちは「久下の開削」という大変な工事を行いみんなの住む熊谷だけでなく武蔵野(現在の埼玉・東京周辺)の人たちを洪水から守りそのうえを豊かな穀倉地帯(田んぼや畑)に変えました。その時に久下村と江川村という二つの新しい村が生まれました。当時二つの村は荒川を使った水運の中心で江戸(現在の東京)と北武蔵(熊谷周辺)をたくさんの人や物が船で行き来するようになりました。そして、明治になり二つの村が一つに合さり「新川村」が誕生しました。



荒川南側土手より撮影 林が点在し、かつての屋敷跡がうかがえる



新川村の暮らしの秘密

木材やお米を江戸まで運び逆江戸からは塩や肥料が運び込まれ大変な賑わいをみせていました。荷物が河岸に到着すると村人たちは元気の掛け声と共に荷物をおろし村の暮らしを支えました。

江戸時代が終わり明治時代になると、熊谷に鉄道が開通し荒川を利用して荷物を運ぶ仕事はしだいに減っていき村人たちは新しい仕事に養蚕(カイコ)を育て絹糸を作る仕事をはじめました。新川村では大変いい桑の葉が取れそれを食べたカイコからは質のいい絹糸がとれ大変高値で取引され村の暮らしを支えました。



荒川南側土手より撮影 最盛期の人口は約550人、江戸時代は水運が村を支え明治以降は養蚕が村を支えた



大水の度に土砂にうまった三島神社の鳥居

調べてみよう!

新川村の伝説や秘密 ※伝説や秘密の例

- 白蛇さま伝説
- 蛇が神様になった理由は?
- あとかっぱ伝説
- 「おとか」って何?
- もしかしたら今も新川村でおとかに出会う!?
- 荒川最後の鵜匠
- 「鵜匠」って何?
- どんな事をするの?

取材協力 ピースふあいびるクラブ 記者 中島 寛

現代の新川村の秘密

新川村から最後の住人が去つて約50年が経ちます。今、新川村には鳥居やお地蔵様が静かにたたずんでいます。土手の上から見ると昔家のあった場所には竹林や防風林が点在し昔の面影を残すだけになってしまいました。

しかし今、新川村が新しく生まれ変わろうとしています。菜園や子ども遊びの森など新しい憩いスペースとしてボランティアの方々によって整備されイベントが開催されています。

みんなも家族の方と新川村を訪れ熊谷の歴史を肌で感じてみてはどうですか?



新川村の伝説! 菜園憩スペース



子ども遊びの森



ぼくらのまちの小さなたからもの

テーマ「ムサシトミヨ繁殖活動」

ぼくたち、わたしたちの住んでいる熊谷だけに住んでいる魚のことをみなさんは知っていますか。それは熊谷の元荒川に生息する「ムサシトミヨ」といわれるトゲウオ科の小さな魚です。ムサシトミヨは大人になっても体長が6cmほどで、冷たくきれいな水の中でのしか生きていくことができない、大変デリケートな魚です。産卵期になるとオスが水草を集めて小鳥のように巣を作り、オスが子育てをするというのが特徴です。



記者 原口紀一郎

その繁殖活動のお手伝いをしたのが東小学校、佐谷田小学校、久下小学校の児童さんたちや多くの熊谷市民でした。なかでも「熊谷市ムサシトミヨを守る会」は1987年からの一生懸命な活動が認められて2013年12月に日本ユネスコ協会連盟の「第5回プロジェクト未来遺産」に登録されました。このプロジェクトはユネスコの未来遺産運動の活動で「100年後の子どものために長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動（100年後の子どものために伝えるために地域の文化や自然を残す活動をしている人たちを応援する運動）」です。

未来遺産に登録!!

ムサシトミヨの生息域が熊谷市の天然記念物に指定されたのは、1984年8月1日のことでした。しかし一時は熊谷からいなくなってしまう危機にもみまわれましたが、みんなの力で川の自然を取り戻し、ムサシトミヨを飼って数を増やすなどの努力をした結果、現在では1万5千匹にまで増やすことができました。

ぼくらのまちの天然記念物…絶滅の危機におちいった時も

絶滅危惧種ってなに？

絶滅危惧種とは今、地球上で数がかなり減ってしまっていて、もしかすると絶滅(いなくなってしまう)するかもしれないと危惧(心配)されているいろいろな動物や植物のことです。

絶滅危惧種の中には動物だとイリオモテヤマネコ、トキ、シマフクロウ、アホウドリなどがあります。(聞いたことがある名前があるかな?)

また、世界各地でも各地域毎に「この動物は数がかなり減ってきているから大事にしないとイケませんよ!」って教えてくれる「レッドデータブック」というものも出しています。もちろん、埼玉県でもこの「レッドデータブック」を出していて、たくさんの動物や植物が掲載されています。魚だけ見てもかなりの種類が絶滅危惧種として載っているの



ムサシトミヨ生息地域の清掃活動

で調べてみよう!

- 参考資料: Weblio辞書
- 埼玉県レッドデータブック2008 動物編

楽しく情報発信!

久下小・佐谷田小の児童さんたちが今年2月にユネスコ未来遺産伝達式でムサシトミヨについてのプレゼンテーションを行いました。学校に飼育委員会を設置し個人個人が日差しの強い夏休みや台風の日とか心配した様子などを大人たちの前に出て立派に説明をし、大人たちに負けないようなプレゼンテーションを披露してくれましたよ。

トミヨ集会って?

熊谷市久下小学校 エコクラブの活動

久下小学校では、1988年にムサシトミヨの増殖池「トミヨ池」を作り、ムサシトミヨの保護増殖活動を目的としたエコクラブを発足しました。毎日の活動は、トミヨ池の清掃と水温調査及びムサシトミヨの観察です。トミヨ池では地下水をくみ上げていて、年間を通してムサシトミヨが過ごしやすい17℃前後に保たれています。普段はムサシトミヨの生息する元荒川の様子を調べたり、どのように環境とかわかっていくとよいか問題提起をする全校集会「トミヨ集会」を行っています。元荒川にムサシトミヨを戻すために、小学生ができることを劇にしたり、クイズにしたりして全校児童に呼びかけ、久下小学校のシンボルであるムサシトミヨを守り、増やしていこうという気持ちを育んでいます。

その他にもこんな活動があります!

- ・ビオトープ「元荒川」の造設
- ・ホタルの飼育
- ・全国水環境フェアと子ども国連環境会議への参加
- ・TBSビジョンから1年間の長期取材



熊谷市ムサシトミヨをまもる会

私達は、元荒川にムサシトミヨやホタルを初め、たくさんの生物が安心して棲めるような環境作りを進めていきたいです。そのためにも元荒川の水質調査やムサシトミヨの保護増殖活動を率先して行い、地域の環境を守るリーダーとして行動していきたいと考えています。

〈麦王〉 権田愛三のひみつ

みなさんは熊谷の偉人と言え、誰を思い浮かべますか？
ここでは、全国に麦作りの改良法を広め、「小麦の里 熊谷」の始まりを作った〈麦王〉権田愛三の一生を追ってみたいと思います。

権田愛三は江戸後期の寛永3年(1850年)に熊谷市東別府に生まれました。

21歳の若さで開誘社という会社をつくり、肥料と藍(染物に使う植物)の栽培に取り組みました。21歳で結婚し、27歳で東別府村(現熊谷市別府)の村長になり、明治17年(1884年)には6つの村の連合村長になりました。

ある日のこと、愛三は自分の麦畑を見て大きなショックを受けました。麦が小さくまばらで、愛三はその場で座り込み考えこんでしまいました。そんな愛三を見て、お嫁さんが蔵の中から農業の本を出してきました。そしてその晩から2人で農業の本を読みながら勉強を始めました。本の中には麦作りのことも書いてあり、愛三はイキイキ



権田愛三(1850-1928)

た顔で「これからは一生懸命麦作りを頑張ろう!」とお嫁さんに話しました。

愛三は道具のサイズや、水のまき方、土の入れ方を変えるなどの色々な研究をしました。また、誰もやったことのない「麦踏み」も試してみました。すると他の麦よりも生育が良く風に強い麦になり、収穫の時には周りの麦畑の倍以上の麦を収穫する事ができました。また、熊谷の雪の少ない気候を利用して、米の収穫が終わった冬の間には麦の生産をする「二毛作」を行いました。

愛三が44歳の時、東京で開催された全国農業大会に出席し、農業改良の必要性を感じ、埼玉県北部に「農業試験場」を作った。愛三の影の努力が実を結び、



熊谷市西別府の「別府農村公園」には、権田愛三の偉業をたたえた碑があります。

明治33年(1900年)に熊谷市玉井地域に「埼玉県立玉井農業試験場」が設立されました。愛三が58歳の時に今まで研究してきた麦作りの改良法を農務省に報告しました。これを機に愛三の改良法が全国に知れ渡り、全国各地から講演を頼まれるようになりました。

その後は各地から多くの人が訪れ、麦作りの勉強のために愛三の家に下宿しました。愛三のところに来て勉強する人、興味を持った人は毎年300人近く訪れ、合わせて5164人もの人が勉強したそうです。

その後、「実験麦作栽培改良法」という本を2500部発行し、これが日本全国の農民の教科書になりました。

このような愛三の貢献に、国は「緑綬褒章」という勲章を与えました。

こうした実績が称えられ、権田愛三は「麦王」と呼ばれました。愛三のふるさと熊谷には、その思いをくんだ良質で全国有数の収穫量を誇る麦作りと、うどんの食文化が今も伝えられています。

記者 田邊 文彦

麦踏みのひみつ

麦踏みとは、早春の寒い時期、1〜2月頃に麦の芽を足で踏み作業のことです。昔はこの時期になると家族総出で畑に出て一列に並び、少しずつ横にずれながら麦を踏んでいくという作業が行われていました。が大変な重労働だったそうです。今ではローラーをつけたトラクターも使われるようになりました。

麦が小さい時期は軽めとし、麦が大きくなるとともに強くします。実施する間隔は10日程度あけて実施します。せつかく芽を出した植物を、なぜ踏むのかというと麦の苗の部分を踏むことにより、茎が折れ曲がったり、傷がついたりして、水分を吸い上げる力が弱まり、麦の内部の水分量が少なくなるため、寒さや乾燥に強くなります。また、霜柱が土を持ち上げて、根を傷めることを防ぐ効果もあります。足で踏むことで浮き上がった土を押さえ、しっかりと土に根を張らせ、まっすぐ伸びる丈夫な麦に育てることが出来ます。踏まれることで、寒さや風に耐えられる強い麦に成長させられるのです。

人も麦も成長には耐える力や適度な負荷が必要となります。厳しい状況の中で、考え、工夫し、行動し乗り越えるからこそ、本当の力は身につけていきます。

皆さんも耐える心、踏まれても踏まれてもくじけない麦のよう、うな強さを身につけて、大きく成長していきましよう。

記者 中島 直也

「ぼろ先生」のひみつ

権田愛三の玄孫(孫のさらに孫)にあたる権田宣行さんにお話を伺いました。



権田宣行さん

「ぼろ先生」という言葉は、響きは良くありませんが、言い換えればそれは飾り気がなく、1つのことに一生懸命で、そして周りの人たちからとても親しまれていた権田愛三をよく表している言葉だと思います。

権田愛三の愛した熊谷は、素晴らしい所が沢山あります。地域の子ども達にも、熊谷の良い所をこれから沢山見つけてもらえたら嬉しいですね。

記者 染谷 秀樹

「つづちゃん」のつづやき



みなさんこんにちは! 私は熊谷市立東小学校出身の上林浩太郎です。大好きな熊谷で生まれ育って、今は熊谷でお仕事をしています。このまちがもっともつと明るく楽しいまちになってほしいので、たくさん仲間たちと熊谷のことを思いながら行動しています。

自分たちの人たちの喜び顔が見たくて仕事をしながら熊谷のまちづくりを一所懸命にやっています。

みなさんは熊谷のことは好きですか? もちろん好きだよ。でも、もっともつとみんなに熊谷のことを好きになって欲しいとおじさんたちはこのひみつ新聞を作っています。このひみつ新聞には熊谷にいるすごい人や熊谷にあるおもしろい場所を紹介していきます。みんなにひみつ新聞で熊谷に興味や関心をもってもらって、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、友だちや先生と熊谷についてお話ししてくれるといいです。

これからみんなが大きくなっていく中で必要なことは友だちといっしょに遊んで体を動かしているいろいろなことを感じて、楽しみながら学んでいくことだと思います。たくさん友達や出来事の中でいろいろなことを感じていくこと、何か興味があるものができたらすぐに調べたり行ってみたりすること、そして身のまわりの人や物にありがとうの気持ちを持つことはみんなの大きなパワーになります。この3つができるひとをおじさんは感心、感動、感謝の心がある「三感王」と呼んでいます。みんなぜひ「三感王」になっっている経験を、いつか自分の夢ができておとなになった時かなえられたらうれしいです。おじさんたちはいつかみんなが熊谷を大好きになってこの熊谷にみんなの笑顔がいっぱいになるように心意気をもって毎日過ごしていきます。

最後まで読んでくれてありがとうございました。これからもよろしくおねがいします!

社団法人熊谷青年会議所
理事長 上林 浩太郎



食べて「涼しくなる!?!」 おいしいクールシェアのひみつ



穏やかな春が過ぎると暑い熊谷の夏が訪れます。2007年に40.9℃を観測して日本一暑いまちとなった熊谷では、暑い夏を涼しく過ごすために様々な取り組みが行われています。記録は昨年、高知県四万十市に塗り替えられてしまいました。熊谷は暑さ対策では今も日本一のまちなのです。

その様な取り組みの一つが「クールシェア」です。この取り組みは、夏の電気使用量を減らすために、ひとり一台でエアコンを使用のをやめ、家族で涼しい部屋に集まったり、家のエアコンを止めて、まちのお店や、自然が多くて涼しい場所に行くことで、みんなで暑い夏を楽しく快適に過ごす!というものです。

夏を涼しく過ごす工夫というと、エアコンや自然の木陰などを利用して体が感じる温度を下げる方法が真っ先に思い浮かびますが、涼しさを感じる方法は、他にも沢山あります。実は皆さんにも身近な「食べる」ことを通じて涼しさを感じることができているのです。今日は皆さんにおいしくて、しかも涼しくなる食べ物、「クールシェアグルメ」をご紹介します。

「クールシェアグルメ」は

全国的にも有名な「雪くま」や「くま辛」などのように、暑い夏を楽しくクールに過ごすためのおいしい食べ物を指します。他の地域にはない、熊谷らしいユニークな食べ物です。

その①「雪くま」

「雪くま」は、熊谷のおいしい水から作った水を雪のようにふわふわに削り、お店ごとにオリジナルのシロップを使用したかき氷です。普通のかき氷との一番の違いは、その食感です。「雪くま」は口の中に入るとふわっと溶けて無くなってしまいうんとすよ。是非、熊谷でしか味わえないこの食感を試してくださいね!

この「雪くま」には、雪くまのれん会という「雪くま」を販売するお店の集まりがあります。

今年の動きについて、会長の小島一浩さんに、こっそりお話を聞いてみました。

「いま検討しているのは、季節を先取りした食材で作った新しい味のソースです。例えば、栗とかお芋を使って、今まで皆さんがあまり味わったことのない新しい味の「雪くま」を作ればと思っています。」

栗などの秋の味覚が好きな人は、そんな「雪くま」を是非食べてみたいですね。まだ試作の段階ということですので、いつ登場するのかはわかりませんが、とっても楽しみです。

また、小島会長は「雪くま」を提供しているお店は、手間ひまをかけて一生懸命雪くまを作っているというところをもっともっとお客さんに知っていただきたいです」と話していました。

皆さんが今年の夏も楽しくクールに過ごすため、「雪くま」の進化は止まりません。



「雪くま」のことをお話ししてくれた「雪くまのれん会」の会長を務める「シノン洋菓子店」店長の小島一浩さん

その②「くま辛」

「くま辛」は、「雪くま」とは逆に「HOT」をキーワードにした辛口メニューのことです。この「HOT」には、暑い・熱い・辛いという意味があります。市内の沢山のお店が、この暑いまちで、熱い思いを込めて、辛いメニューを提供してくれそうです。

実は辛いメニューには発汗(汗を出す)作用があつて、冷たい物を食べるよりも涼しくなれると言われています。本当に辛い物を食べて涼しくなれるか試してみたいですね!

こちらの「くま辛」は、くま辛実行委員会が中心となって毎年色々なチャレンジをしています。

実行委員長の内田恵三さんに今年の動きについて聞きました。

「今年は今までよりも広いエリアで「くま辛」が食べられるお店を募っています。去年まで家の近くに「くま辛」のお店が無かった皆さんも食べられる機会が増えるかもしれませんよ。」

今までの「くま辛」を食べる機会が少なかった人も今年の夏は「くま辛」が身近な「クールシェアグルメ」になりそうです。

さらに、内田実行委員長には、「皆さんに「くま辛」を食べる機会が増えるように、熊谷で行われるイベントに積極的に参加します」と熱意あふんだまを語って頂きました。

こういった思いを胸に、私たちのまちを盛り上げようとしている「雪くま」や「くま辛」を、皆さんも美味しく食べることで応援してあげてくださいね。みんなで一緒に「涼しくてクールなまち」熊谷を盛り上げましょう。



「くま辛」のことをお話ししてくれた「くま辛実行委員会」の執行委員長を務める「市場の食卓」オーナーの内田恵三さん

これらの「クールシェアグルメ」を、友達や家族と一緒に楽しく体験できるイベントをご紹介します

①第4回熊谷B級グルメ大会
「うまいもの祭り」

ご当地グルメが数多くある埼玉県の中でも、熊谷は県内有数の生産を誇る小麦をつかった粉食文化をはじめとした「食」に対する意識が高く、魅力的なメニューを提供するお店が数多くあります。「くま辛」と「雪くま」のお店も出展する予定です。

開催日時・会場
平成26年5月25日(日)10時~15時
(売切れ次第終了です)
熊谷スポーツ公園 にぎわい広場(熊谷上川上300)

②いいね!星川でクールシェア
「2014年度クールシェアくまがやキックオフイベント」

先ほども紹介した「クールシェアくまがや」のキックオフイベントが開催されます。星川の水辺で遊べたり、ミニ新幹線が走ったり、もちろん「雪くま」や「くま辛」のお店も出展するよ!元気なみんなはぜひ参加してみよう!

「いいね!星川でクールシェア」
~2014年度クールシェアくまがやキックオフイベント~

日時:2014年6月1日(日)11:00~15:00
場所:熊谷市星川周辺 参加費:無料
主催:社団法人熊谷青年会議所
後援:クールシェアくまがや実行委員会、熊谷市、熊谷商工会議所
協力:東日本旅客鉄道株式会社、熊谷市ムサシトミヨを守る会、NPO法人エコネットくまがや等

編集後記

みなさん、こんにちは!編集長のおつちゃんです!!今年で3年目になりました「熊谷ひみつ新聞」、今回もみなさんが「熊谷にはまだこんなひみつがあるんだ!」って楽しく読んでもらえるような新聞を熊谷青年会議所のおつちゃんたちと作ってみたいよ!もし、まだ記事を読んでいない子がいたら読んでから「こへもどってきてね。読んでくれた?ありがとう!今回もいろいろなひみつを探してきました。ちょっと難しいところもあつたかもしれないけど、そういう時はお父さんやお母さん達に聞いてみて!自分で調べてみるのもアリだよ!!しかも、今回の記事の中にはそれに関係したイベントをおこなうものもあります。そこへ行けば記事を読んで不思議に思ったなぞがとけるかも!まだまだ熊谷にはいろいろなひみつがあります。熊谷青年会議所のおつちゃんたちは、みんなにもっと熊谷を好きになつてもらいたくて、ひみつ「魅力」を生懸命探しています。みんなも「僕こんなひみつ知ってるぜ!」「私こんなひみつ知りたい!」ということがあつたらドンドンおつちゃんたちに教えてくださいね。

編集長 原のおつちゃん!

調べてほしい「ひみつ」大募集

地元熊谷で調べてほしい「ひみつ」を募集しています。ハガキまたはメールにて調べてほしい内容を書いてお送りください。皆様からの新聞に対するご意見もお聞かせ下さい

応募先
〒360-0041 熊谷市宮町2-39 熊谷商工会館内
社団法人熊谷青年会議所
熊谷ひみつ新聞「ひみつ大募集」係
メール:info@kumagaya-jc.or.jp